

第2学年 国語科学習指導案

指導者 富安 昌美

- 1 単元名 できるようになったことを書いてしらせよう
「できるようになったよ」(東京書籍 2年上)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、入学してからできるようになったことをお世話になった幼稚園や保育園の先生にくわしく書くことを位置付けた。経験したこと振り返ったり、自分の成長に気付いたりできるようになってきている2年生にとって、今の様子を小さい頃お世話になった先生に文を書いて伝えるという活動は、相手意識・目的意識をもって書くことにつながると考える。また、相手に伝わるようにくわしく書くためには、語や文の順序や組み立てを考えたり、表現を工夫したりする必要性が生まれてくる。このことから、第2学年「B 書くこと」(1) イおよびエを実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまで5月の単元「ことばで絵を伝えよう」では、大事なことを落とさずに順序よく説明する学習を行った。その際、順序を表す言葉の「はじめに」「つぎに」「それから」「さいごに」を使い、説明する練習をしてきた。6月の単元「よく見て書こう」では、観察して気付いたことをくわしく書くことを学習した。色、形、大きさ、触感などの観点を書くだけでなく、身近なものに例えて書いたり、具体的な数値を出したりするとよいことも学習してきた。また、毎週木曜日の朝に設定されているミニ作文の時間に、短作文を書いたり、友達の作文のよさを見つける活動を取り入れたりしてきた。さらに、毎週末には日記を書いたりすることを通して、つなぎ言葉を意識して使ったり、時間的な順序に気をつけて書いたりすることが少しづつできるようになってきた。しかし、書くことに対する苦手意識が強い児童が少なくない。5月に実施したアンケートでは、文を書くことが苦手だと答えた児童が*名おり、その傾向がうかがえる。何を書いていいのか分からない(*名)ということから、題材の選択に困る児童がいること、書き方が分からない(*名)ということからは、文表記の仕方が十分身に付いていないことが分かる。書くことに抵抗がなく、表現を工夫して文章を書くことができる児童(*名)がいる一方で、文意が整った文が書けない(*名)といった児童もあり、書く力の差が非常に大きい。

国語についてのアンケート (第2学年*組 *名)	平成*年*月*日実施
<input type="radio"/> 国語の学習で書くことは好きですか?	
好き *名 どちらかといえば好き *名 どちらかといえばきらい *名 きらい *名	
<input type="radio"/> どちらかといえばきらい またはきらいと答えたわけ	
文を書くのが苦手 *名 何を書いていいのか分からない *名 書き方が分からない *名	
<input type="radio"/> 今週の出来事を書いた日記 平成*年*月実施	
順序を表す言葉や様子を表す言葉を使い文意の通る文章を書いた *名	
順序を表す言葉や様子を表す言葉を使わなかつたが文意が通る文章を書いた *名	
文意が通った文章を書くことができなかつた *名	

(2) 教材観

入学してから今までの生活の中で、できるようになったことを題材に、事柄の順序に気を付けて文章を書くことをねらいとしている。ここでは、学習の基本となる「始め・中・終わり」の文章構成を初めて学習する。「始め」に伝えたいことを書き、それを「中」でくわしく書き、「終わり」には思ったことを書いてまとめる。また、書いた文を推敲することも学習する。教材文をモデル文として、よりよい表現方法を学ぶことで、書く力を付けることができる教材である。

(3) 指導観

書く活動の相手意識や目的意識をもたせるために、単元の導入で、幼稚園の先生からのビデオレターを視聴させる。今回書いたことを知らせる対象となる幼稚園や保育園の先生は、児童の成長を心から喜んでくれる相手であり、児童が自分のことを知ってほしい相手でもある。そのため、自分が書い

た文を読んでくれる先生の顔を思い浮かべながら、単元を通して書く意欲を持ち続けて学習することが期待できる。しかし、できるようになった経験をくわしく思い出すことは容易ではないので、普段から跳び箱や鉄棒運動、家でのお手伝いなどの共通体験を数多くさせ、書く題材に困らないようにしたい。

書く題材を決める際には、たくさんあった体験の中から、一番伝えたい題材を選定することができるよう、「できるようになったメモ」を複数書かせ、くわしく書くことができるものを基準として選ぶようにする。入学してからできるようになった複数の経験の中から伝えたいことを一つ選んで書くことが、本校の研究テーマである「複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関係付けたりしながら書く指導の充実」につながると考える。

能力差にも配慮し、単元計画を表にして掲示し、学習の進め方が理解できるようにするとともに、つなぎ言葉の例や気持ちを表す言葉の例などを「お宝カード」にして持たせ、言語環境を整えておきたい。さらに、書いたものを読み合い感想を伝え合う機会を多く設けることで、表現を磨き合い、書く意欲を高めていきたい。

4 単元の目標

- 入学してからできるようになったことを伝えることに関心をもち、進んで書こうとする。
(関心・意欲・態度)
- 教材文を通して読み取った文章の簡単な構成や表現の仕方を生かして、できるようになったことを分かりやすく書くことができる。
(書くこと)
- 句読点や助詞、かぎの使い方に気を付けて書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・入学してからることを振り返り、できるようになったことを発表したり、体験を思い出したりして、進んで書こうとしている。	・簡単な文章構成を考え、様子がよく分かるように表現を工夫して書こうとしている。	・書いた文章を読み返し、句読点や助詞・かぎの間違いを正したり、友達の表現のよさを見つけておりしている。

6 単元の指導計画（11時間扱い） ○は本時

主な学習活動	主な評価
第1次 1 幼稚園の先生からのビデオレターを視聴し、「できるようになったことを書いてしらせよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・入学してからできるようになったことを発表したり、どんなことを書いて伝えたらよいかを考えたりしている。 (関心・意欲・態度)
第2次 1, 2 教材文「できるようになったよ」を読んで、文章の構成や書き方を知る。 3, 4 伝えたいことを短冊メモに書き出し、順序に気を付けて並べる。 ⑤, 6 短冊メモをもとに、下書きの文章を書く。 7 原稿用紙の使い方を確かめ、原稿用紙に清書する。	・「始め」「中」「終わり」の文章構成で書くことやメモをもとにした文・文章の書き方を理解している。 (書く能力) ・「したこと・できたこと」「思ったこと」「周りの様子や話したこと」などを簡単な文で書いている。 (書く能力) ・幼稚園や保育園の先生に伝わるように、言葉や文のつながりを意識して書いている。 (書く能力) ・原稿用紙を使った文章の書き方を理解し、正しく書いている。 (書く能力)

第3次 1 グループで文章を読み返し、間違いを正す。 2 間違いを直して、正しく書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> 句読点や助詞、かぎの使い方の誤りを書き直そうとしている。 <p>(言語についての知識・理解・技能)</p>
第4次 1 文章を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 表現のよさに気づき、感想を伝えている。 <p>(言語についての知識・理解・技能)</p>

7 本時の学習

(1) 目標

メモをもとにしてできるようになったことの文を書くことを通じて、表現を工夫する方法を知り、相手に伝わるようにくわしく書くことができる。(書くこと)

(2) 準備・資料

学習計画表 本時の学習計画の流れを書いた小黒板 短作文用紙 振り返りワークシート
お宝カード モデル例 電子黒板 実物投影機

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>ようちえんやほいくえんの先生につたわるように、くわしく書こう。</p> <p>(1) 本時の学習の流れを確認する。</p> <p>(2) 相手に伝わるようにくわしく書いた文のモデル例を見て、書き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文末表現「した。」→「しました。」 つなぎ言葉 様子を表す言葉 思ったこと 会話 <p>2 カードを見ながら、文をくわしく書く。</p> <p>(1) 文をくわしく書く。</p> <p>メモ ぼくは、ショッピングをあらった。</p> <p>文 ぼくは、ついにショッピングをあらいました。 せんざいのあわは、白くてふわふわしました。</p> <p>(2) 自分の文を読み直し、くわしく書けたところに青線を引く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を提示して、お世話をした幼稚園や保育園の先生に入学してからできるようになったことを知らせることを目的にして、短冊メモの文に言葉を書き加えたり、新しい文を作ったりして、くわしく書くことを確認し、学習の見通しがもてるようにする。 本時の学習計画を掲示し、学習の流れを確かめることで、児童が学習の見通しをもって活動に取り組めるようとする。 掲示用に拡大したモデル例を提示し、くわしく書くためのポイントを確認する。 書くときのヒントにできるように、接続語や様子を表す言葉などを書いた「お宝カード」を活用するよう促す。 どう書いたらよいか迷う場合は、必要に応じて、ペアや近くの友達と相談してもよいことを伝える。 短冊メモを貼った短作文用紙を用意し、一つのメモごとにくわしく書かせることで、付け加えた表現が分かるようする。 書き方に不安を抱く児童には、教師の範例文を参考に文章を書かせたり、今まで書いたミニ作文の読み返しをさせたりする。 書き終わった自分の文章を読み直し、くわしく書けたところに青線を引かせることで、書き加えたところが一目で分かるようする。

(3) ペアや近くの友達と読み合い、友達の文のよいところに赤線を引く。

- 表現の工夫を意識させるために、まず、青線を引いたところを見せ合い、どうくわしくしたのかを伝え合うようにさせる。その後、友達の文のよいところを見つけ、赤線を引かせるとともに、どうして線を引いたか、その理由も伝えるように助言する。
- 文のよさを認め合うことで、書く楽しさや達成感が味わえるようにする。

評価（書くこと）

幼稚園や保育園の先生に伝わるように、くわしく書いている。（短作文用紙）

3 友達の文章のよさを発表し合う。

「ふわふわ」という様子を表す言葉があるから、様子がよく分かる。

「何かいもれんしゅうすればできるんだなと思いました。」のところは、気持ちがよく書けている。

4 本時の学習を振り返る。

- 学習の振り返りをワークシートに書く。
- 学習後の振り返りを発表する。

- 線が引いてある文のいくつかを紹介し、どのようにくわしくなったかを話し合うことで、くわしく書くためのポイントを再確認する。さらに、自分の文にも参考にさせることができるようになる。
- 児童が見やすいように、電子黒板に文例を表示する。
- 学習を通して、できるようになったことや分かったこと、次の学習でしたいことについて書かせることで、これからの学習につなげたい。